

胎内ビジョン

胎内ビジョンは富嶽三六〇内部の空洞にあるスクリーンに投影映される映像展示です。「胎内」という語は富士山周辺にある溶岩流の地下にある狭い洞穴を指します。18 世紀後半になると、富士講巡礼者はこれらの洞穴を信仰の実践に用い始めました。肋骨や乳房に似た岩が形成された洞穴内は、人間の身体の内部、文字通り「胎内」を暗示していました。やがて、巡礼者たちは、これらの胎内を巡って再び地表に出ることにより、霊的に生まれ変わることができる信じようになりました。

ここ、富嶽三六〇の「胎内」にある胎内ビジョンでは長年にわたって富士山が生み出した信仰と芸術を紹介しています。映像は開館時間中、一定間隔で繰り返し上映されます。